



顔料プリントの工程

弊社のオーダーのれんには、前回ご紹介した本染め、昇華転写の他に顔料プリントの染め方があり、ご希望にあわせて最適な方法をご提案しております。今回は“顔料プリント”の工程をご紹介致します。

“顔料プリント”とは

簡単に言いますと、生地の上に色のついた糊のようなものがのっている状態です。

粒子が大きいので繊維に染み込みません。つまり表面のみにプリントされており裏面は無地のままです。最近ではTシャツプリントによく使用されています。

色と色の当たる所に白フチは必要なく、色の付きつけが出来るのも大きな特徴です。

またプリント面は耐光堅牢度が強い一方、摩擦には弱いのも特徴です。



オーダーのれん“顔料プリント”制作工程

① ご注文

お客さまより頂いたご注文内容に基づき、生地や色味等の確認が必要なことがあればすり合わせさせて頂いた後、製作をスタート致します。

② データ・顔料インク作成

お客さまより頂いたデータやデザインソース(箸袋や名刺等)をもとにデザインデータを作成します。

また、ご希望の色に合わせて顔料インクも調整します。配合データを元に顔料インクとバインダー(接着剤)を混ぜ合わせて出来上がります。顔料の場合、素材によってインクが変わることはありません。

(写真 A 参照)



A：顔料インク作成

③ 型作成

作成されたデータは溶剤を塗布した型枠に直接インクジェットで吹付け製版し、乾燥後、紫外線で露光させ定着させるインクジェット製版や製版用の紙をカッティングマシンでカットし型枠に圧着させるハンド製版で型をおこします。

(写真 B 参照)



B：ハンド製版

④ 染め

染めはスキージと呼ぶヘラを使う手捺染です。生地の上にロゴが製版された型を置き、スキージを移動させて染料をのせて染めていきます。(この時、色乗りが悪ければ交互に繰り返し染めていきます)型を上げて染め上がりです。

(写真 C 参照)



C：手捺染

⑤ 縫製・検品

仕上げ乾燥後、ご注文内容に沿って仕立てます。

(写真 D 参照)

⑥ 出荷・納品

サイズや汚れ、また検針器にかけて針折れのチェックを行ない、丁寧にアイロンをかけしわをとり出荷します。

D：乾燥



この様に顔料プリントは本染めとは違い、蒸し・水洗の工程がない分納期の短縮が出来ます。又、既成の色がついた生地を使用することも出来ますので、同じのれんの枚数が増えると、コスト的にもメリットが出てくることもあります。お客様のご要望される優先順位に応じて、色々ご相談に乗らせて頂きますので、お気軽にお声掛け下さいませ。